

米国 コア物価の上昇率は低すぎず高すぎず安定的(16年7月消費者物価)

2016年8月17日(水)

～変動の大きい航空運賃、ホテルの一時的な下落で下振れ～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治

03-5221-5001

消費者物価 (Consumer Price Index)

	消費者物価		消費者物価 (Consumer Price Index)									
	総合		コア	エネルギー	食品	住宅	アパレル	運輸	医療	商品 コア	サービス コア	
16/01	+0.028	(+1.4)	+0.293	(+2.21)	▲2.8	+0.0	+0.1	+0.6	▲0.8	+0.5	+0.2	+0.3
16/02	▲0.168	(+1.0)	+0.283	(+2.33)	▲6.0	+0.2	+0.2	+1.6	▲2.5	+0.5	+0.3	+0.3
16/03	+0.090	(+0.9)	+0.069	(+2.19)	+0.9	▲0.2	+0.1	▲1.1	+0.4	+0.1	▲0.2	+0.2
16/04	+0.408	(+1.1)	+0.195	(+2.15)	+3.4	+0.2	+0.2	▲0.3	+1.6	+0.3	▲0.1	+0.3
16/05	+0.218	(+1.0)	+0.203	(+2.24)	+1.2	▲0.2	+0.3	+0.8	+0.4	+0.3	▲0.2	+0.3
16/06	+0.216	(+1.0)	+0.170	(+2.26)	+1.3	▲0.1	+0.2	▲0.4	+0.6	+0.4	▲0.2	+0.3
16/07	▲0.041	(+0.8)	+0.088	(+2.20)	▲1.6	▲0.0	+0.3	+0.0	▲1.1	+0.5	▲0.1	+0.2

(注) 括弧内は前年同月比

7月の総合は前月比
▲0.041%と下落し、
コア指数(コアイン
フレ)は前月比+
0.088%と小幅鈍化

16年7月の消費者物価(総合)は、前月比▲0.041%と鈍化した。概ね市場予想の同+0.0%と一致した。食料品が前月比▲0.0%(前月同▲0.1%)と横ばいとなった一方で、エネルギー・食品を除く消費者物価(コアインフレ、コア指数)が前月比+0.088%(前月同+0.170%)と鈍化し、市場予想同+0.2%を小幅下回ったうえ、エネルギーがガソリンの低下により同▲1.6%(前月同+1.3%)と下落に転じた。これまでのドル高の効果、世界的な需給ギャップの残存等に加えて、原油価格下落の影響を受け、総合物価は小幅マイナスに転じた。コアインフレは、航空運賃やホテルの一時的な下落等により抑制された。

コアインフレを商品(財)とサービスに分けると、財価格が余暇商品や中古車の下落にもかかわらず、新車などの上昇の影響もあり前月比▲0.1%(前月同▲0.2%)と下落幅を縮小したが、サービス価格は同+0.2%(前月同+0.3%)と低下した。

財では、新車が前月比+0.2%、歯磨き粉など個人向けケア商品が同+0.2%と上昇に転じた。また、衣服が前月比0.0%(前月同▲0.4%)、家庭用品が前月比0.0%(前月同▲0.3%)と横ばいとなった。一方で、薬品が前月比+0.4%と鈍化したほか、自動車部品・装備が前月比▲0.6%、タバコが同▲0.5%、アルコール飲料が同▲0.1%と下落に転じた。また、スポーツ用品・TV・ゲームなどの余暇商品が前月比▲0.4%、情報機器が同▲0.5%、中古車が同▲1.0%と下落が続いた。

サービスでは、自動車保険が前月比+0.4%(前月同+0.2%)、医療保険が同+0.7%(前月同+0.4%)、医療サービスが専門サービスなどの上昇によって同+0.5%と加速した一方で、金融サービスが同+0.3%(前月同+1.0%)、賃料が同+0.3%と鈍化したほか、変動の大きい航空料金が前月比▲4.9%(前月同+1.6%)、変動の大きいホテルが前月比▲2.4%(前月同+0.6%)と下落に転じた。また、シェアの大きい帰属家賃は前月比+0.3%と同じ伸び率となった。

コアインフレのモ
メンタムは安定

コアインフレのモメンタムをみると、7月は3カ月前対比年率+1.9%(前月+2.3%)6カ月前対比年率+2.0%(前月+2.5%)とともに鈍化しており、中短期でコアインフ

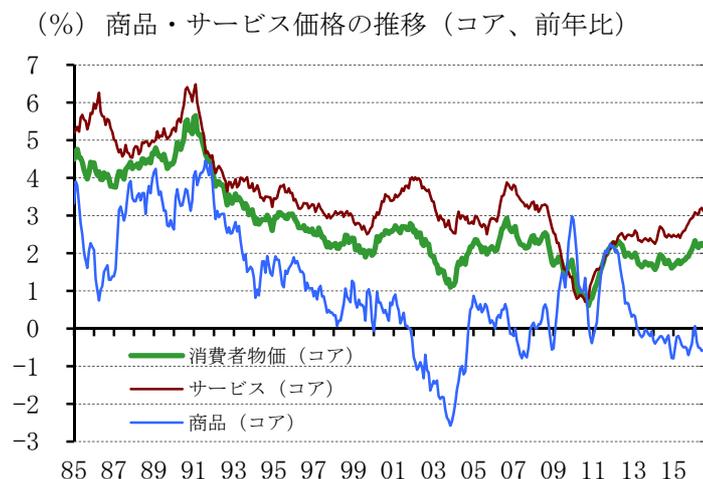
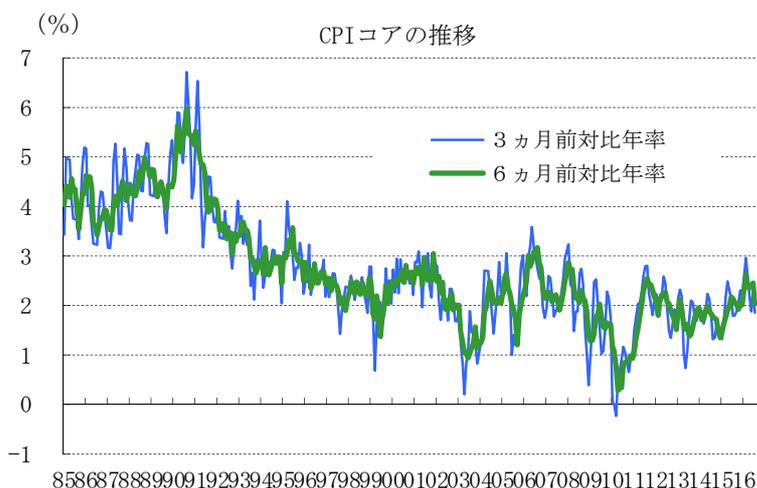
レの上昇モメンタムは安定している。

前年比では、7月の総合指数が+0.8%、コア指数が+2.2%と低下

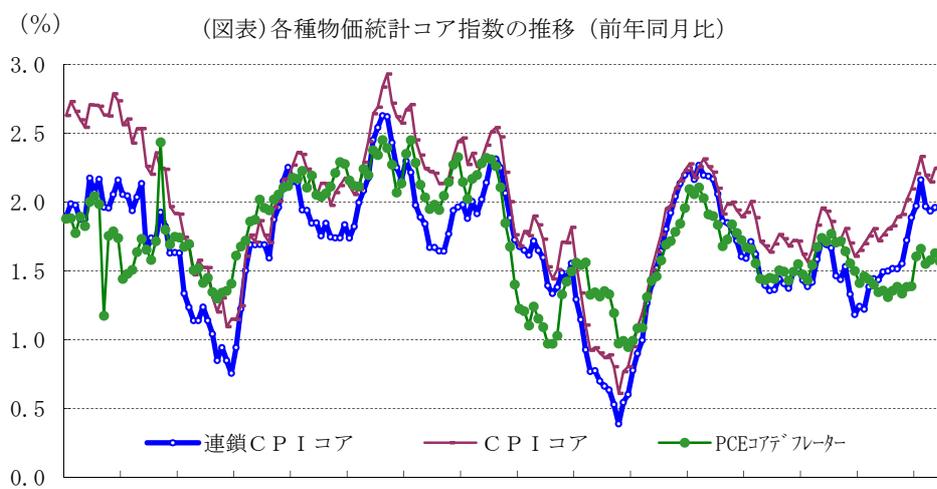
前年比での7月の消費者物価動向をみると（以下、前年同月比）、総合が+0.8%（前月+1.0%）と小幅低下し、市場予想の同+0.9%を下回った。食料品が+0.2%（前月+0.3%）と低下したうえ、エネルギーが▲10.9%（前月▲9.4%）と下落幅を拡大した。コア指数も+2.2%（前月+2.3%）と低下し、市場予想の+2.3%を下回った。コアでは、サービスコアが帰属家賃、賃料、自動車保険など需要の強い分野の上昇によって+3.1%と上昇を続けた一方で、財コアが▲0.6%と下落した。また、より実態の物価動向を示す連鎖CPIコアも+1.9%（前月+2.0%）と小幅低下した。

F R Bが重視しているPCEコアデフレーターは、財価格の下落が続く一方で、医療サービスが上昇するとみられること等から、7月に前年同月比+1.6%と前月程度の上昇率が予想される。

以上のように、7月の消費者物価統計は米国のインフレ率が低すぎず高すぎず安定していることを示している。



(出所) 米労働省



(出所) 米商務省、米労働省

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。